

喜多流

第六回
塩津能の會
九州公演

令和元年12月14日(土)午後1時30分開演
(12時30分開場)

大濠公園能楽堂

福岡県福岡市中央区大濠公園1番5号 TEL 092-715-2155
<http://www.ohori-nougaku.jp>

【鑑賞券】

正面特別指定席/10,000円
正面(指定席)/7,000円
脇正面(指定席)/5,000円
中正面(指定席)/4,000円
正面(自由席)/6,000円
脇正面(自由席)/4,000円
中正面(自由席)/3,000円

【電話予約・お問合せ】

塩津能の會事務局

TEL/FAX: 03-3330-6803

【オンラインチケット申し込み】

<http://kita-noh.com/ticket>

(クレジットカード決済・コンビニ購入受取が可能です。)

塩津能の會オフィシャルサイト
<http://www.shiotsu-noh.com>

詳しくはこちらへ→



主催: 一般社団法人 塩津能の會

【会場案内】



■西鉄バス 黒門バス停…下車徒歩3分 大濠公園バス停…下車徒歩3分
■地下鉄 大濠公園または唐人町…下車徒歩7分

第六回 塩津能の會 九州公演

おはなし

塩津 圭介

舞囃子

歌 占

塩津 哲生

大鼓 白坂 保行
小鼓 飯田 清一

笛 相原 一彦

大島 輝久
内田 成信
狩野 了一
佐々木多門

地謡

狂言

子盗人

シテ(博奕打) 野村 万禄

アド(乳母) 吉住 講
アド(主人) 吉良 博靖

〔休憩二十分〕

能

海 人

シテ(海人) 龍女 塩津 圭介

ワキ(従者) 御厨 誠吾

ワキツレ(従者) 坂苗 融

間狂言(浦人) 野村 万禄

後見

塩津 哲生
大島 輝久

地謡

工藤 義彦 粟谷 充雄
狩野 祐一 狩野 了一
佐々木多門 長島 茂
渡辺 康喜 内田 成信

(終了予定午後四時半頃)

あらすじ 歌 占

伊勢の国二見の浦の神子、度会の何某(シテ)は神罰によつて頓死し、地獄の苦患を味わひ三日後に蘇生します。以来若きに見合わぬ白髪姿となり、今は白山の麓で歌占を生業としています。

そこへ里人と少年がやってきます。少年は父を探していますが、男が占うと「父にはもう会つていない」と出ます。不審に思い、男が少年に在所等を訊ねると二人は生き別れた親子であることがわります。

これを機に郷里へ戻ろうとする男へ、里人が地獄の様子を語って欲しいと申し出ます。男は承諾し、世の無常や地獄の有様について語り聞かれます。語るうちに男は神憑りとなり、激しい神の責めに苦しみますがやがて狂乱は去り、我が子と共に故郷を目指し帰って行きました。

今回は地獄巡りの有様から最後までを舞囃子(能の一部を紋付袴姿で囃子と地謡と共に演じる形式)でご覧いただきます。

あらすじ 子盗人

金策尽きた博奕打は、裕福な家へ狙いをつけ盗みに入ります。ようよう忍び入ったその一室には、あどけない幼子が寝かされていて……。いつの世も変わらない、人間の微笑ましい姿が魅力の狂言です。

あらすじ 海 人

藤原不比等の子、房前大臣は亡母の追善のため讃岐の国志度の浦へ赴きます。そこに一人の海人(シテ)がやってきました。海人は、かつて龍神に奪われた名珠を取り返すため子の立身と引き換えに命を懸けて珠を取り戻した海人の話をします。大臣は亡き母がその海人であると知り、追慕の念を募らせ涙を流します。

従者は珠を取り返す場面を真似て見せるよう所望し、海人は仕方話で再現します(玉之段)。珠を取り戻し命果てるまでを語り終えた海人は、自分こそがその海人であり母の幽霊であると告げ、その証として大臣に文を託し海中へ消えていきます。

大臣が母からの手紙を見ると、死して後十三年、誰も自分を弔う者はない、孝心があるならばこの闇から救つて欲しい、と綴られています。大臣は法華経を誦し十三回忌の法要を営みます。この弔いに海人の霊が龍女の姿で現れ成仏を喜び、経文を唱え仏縁を得た喜びを爽やかに舞い表します。